



祭りの幕開け「パレード」

くずまき秋まつりは9月22日と23日の2日間、盛大に開催されました。初日は午前中雨に見舞われましたが、パレードが始まるころには青空がのぞきはじめ、みこし渡御や浦子内組、茶屋場組、下町組、新町組の華やかな4台の山車が町内を練り歩きました。二日目は、前日とは打って変わって真夏を思わせるような強い日差しの中、色鮮やかな山車と踊りに観客から大きな拍手が送られました。

勇壮に豊作を祝ら くずまき秋まつり



山車運行の幹事組・浦子内組の豪華綺麗な山車



「よーいわーあーあえい〜」。豊作を祝って高らかに歌い上げる音頭上げ。息子に跡を譲りました？



夜を徹して作り上げた山車を堂々と披露



山車運行を支える人



おじいちゃん大活躍



お花の御礼に音頭上げを門打ちで披露



初めて社会体育館で行われた「踊りの競演」
老いも若きもはじけちゃいました



おそろいのお祭りルックで「葛巻音頭」

まつの話題

葛巻の気候にぴったり 夏秋どりイチゴ最盛期



年間を通して出荷可能な「四季成り品種」のいちご栽培（5%）に取り組む石木さん夫妻。「魅力ある作目」と國秋さん。

冷涼な葛巻の気候を生かした新規作目として、町が取り組みを進めている夏秋どりイチゴの出荷が最盛期を迎えています。町の産業振興協議会（会長・鈴木重男町長）が導入に取り組んで5年目。昨年からの収穫が始まり、今年も9月初めから4戸の農家が毎日JAを通じて盛岡と東京の市場へ出荷。今年新たに栽培に加わった石木國明さん（50・毛頭沢）は「イチゴも手を掛けてあげるほどいいものができます。生産者としてまだ未熟ですが、研修を積んで仲間とともに産地化を目指しています」と、収穫作業に汗を流していました。イチゴはケーキの材料として出荷され、市場から良質な国内産として期待されています。

団結し危機乗り越えを 酪農生産者が集会開催

酪農生産者危機突破集会は9月5日、もく・木ドームで開かれました。

集会は、JA新しいわて酪農生産部協議会（中家重夫会長）が主催し、管内の約300人が集結。2年連続の減産型計画生産に続き、昨年後半からの相次ぐ配合飼料の高騰や原油高による生産コストの上昇などで手取り乳価の減少を招いている事態を受けて開催されました。生産者からの提言や「牛乳の生産・流通・販売の課題をどう克服するか」と題してパネルディスカッションも行われ、組織の総力を挙げた取り組みを誓いました。



「これ以上酪農の仲間を減らさない」と、意識統一を図った酪農生産者危機突破集会。



巨大なナスを育てた入月トキさん

なんだべな一す グローブ？ いえいえナスですよ！

「こりゃあ どうでんしたな一す」と、情報を寄せてくれたのは入月トキさん（75・橋場）。大きめのナス5本分くらい約1kgはありそうとご主人の甲生さん（75）も「グローブみたい」と驚き顔。記録的な猛暑のこの夏にもかかわらず、バテずによく育ちましたね。

奥の深〜いスポーツだよ！ くずまき高原牧場杯ゲートボール大会



寺田Bチームが優勝した大会

白や積ム七ト
熟るみでチボ第
しほ重開一八
たどね催ムル回
ゲーム選れが大会
ムがし手ま加が
展ス達して九ま
開ポ一すも六高
されツ、日く日原
ま、会、練木町杯
した場れ習ド内
は。はをの